

永く歴史を誇る我が神宮、その院が関
 内山高地に神皇の美令や定く成り神
 西大御宇を睥睨して更に輝く、飛躍の
 方一步を踏みあさるべし、是れこそ
 は私に与りては無上の感激である。新
 校舎新築に當り、金上寺と奉げて、竹中
 啓康の絶之に一仙さめたるその信程に
 對して改めて満腔の感謝の意を表す次
 手である。南中即今此のこの絶大なる
 信程に對し、私は極初より非常の責任
 感を抱かざるを得なかつた。即ち全身
 の誠意と悔しきばかりの熱心とを以て
 二年にわたりあつめる思い得べき犠牲と
 思い、以て最も精勵的、一學院を左右
 の希望に、副あつて立派たる、殷實な、
 せんうきなる、居所と、居たはたせよう。
 然るに、居るは先づ、一大期間に増進

前掲「神戸女学院特集号」のための
 竹中藤右衛門氏手稿